

平成30年度九州クラブ選手権大会審判総括

2018.05.13 九州ブロック審判長 福島亮一

○大変お世話になりました。佐賀県協会の丁寧なご配慮をうけ、無事に大会が終了したことに感謝申し上げます。以下に今回の審判を参観させての気づきを記載します。上級審判審査等を受験する方や、これからの審判の皆様にも周知され、九州のレフェリングの向上に役立てていただければ幸いです。拡散可能です。むしろ拡散していただきたい。

①ハーフタイム中、トスのあと、アップをしながらでもプレーヤーの装具に気を配る。これは、試合直前も同様。靴下、コンプレッションソックス、サポーター、ヘアピン、松ヤニ、アンダーシャツ、チーム役員の服装、等 試合開始直前に修正させないように気を配る。

② CP と相手 GK の色を確認。同系色は避ける。例) CP 青 : GK 紫、CP 白 GK グレー等

③審判法の理解を 客観的に自分がどのように見えているかチェックする

下記の点は上級審査会での審査視点、かつ今回の課題でもある

- ・笛の吹き方 (短くても全体に聞こえるよう明確に) ・方向指示の手の伸ばし方
- ・ゴールインの手は真上に ・カード、2分間の示し方 ・パッシブの予告合図
- ・タイムアウト ・チームタイムアウト時のレフェリーの位置と観察
- ・ゴールレフェリーの構え方 。コートレフェリーの位置どり (今回のレフェリーは全体的に遠い) ・得点はエンドラインまで戻って吹く ・タイムアウト後の再開手順
- ・スローオフを吹くときの位置 ・退場者がコートを出るまで見届ける
- ・7mスロー時の利き腕側の位置どり 等

④領域分担・・・責任領域は自分か、ペアか・・・別紙資料参照

- ・ペアの責任領域では決して吹かない・・・インカム等でのアドバイスは可能
- ・自分の責任領域では、「攻撃側の違反」もあることを視野に。すべて攻撃有利(ディフェンスファール)にしていないか。パスをした攻撃プレーヤーがその後制止しているディフェンスにぶつかり、ディフェンスが倒れる場合、これは攻撃側の違反である。領域分担に加え、パスしたあとのプレーヤーの動きからすぐに目を離すとこういったプレーは見極められない。意図してではないが、気づかないうちに「攻撃有利」になっていないか自己検証が必要。防御側の正当性を見極めてはじめてチームからの信頼が生まれる。
- ・**ゴールレフェリーがボールをおいすぎている。**従ってポストにパスが落ちてから判定をしているので、**7mスローの判定**が的確に判断されていない。「明らかな得点チャンス」の見極めであり、シュート動作が強いとか弱いとか、打ったとか打たなかったではない。

⑤笛とポイントへの移動

- ・**笛を吹いた(吹こうと思う)なら、まずはポイントへ近づこうとすること。**ほとんどのレフェリーは吹いてから動かない、または吹いてからポイントへ遅れて動いているため、再開の

スローの邪魔になっているケースあり。

・以下の時は、必ず、ポイントへ近づいて対応する

○前半10分までのフリースロー(3mの距離、攻撃側の位置を丁寧に示す)

○プレーヤーが転倒した場合、両チームのプレーヤーが転倒した場合

近くに行くことで予防的できることがたくさんある

○罰則を与えるとき

○ボールが遠くへ行った場合

○タイムアウト、チームタイムアウトの後

☆レフェリーは笛を吹いてからの仕事が多い。笛を吹いてから、決して気をぬいては ならない。

⑥平成30年度の審判員の目標に関連して

☆可能ならば、スライド・映像より、その説明(解説)の熟読を

- ・「シュートを打っている」あるいは「振り切った」という事だけで、判断してはいけない。「シュートを打った」かどうかだけではなく、それ以前の「違反の影響」があったかどうかが大きな判断基準となる。最終のシュート局面で違反され、横流れの状態でシュートを振り切ったものまで流しているケースあり。「最終局面」の許されない接触は、攻撃プレーヤーからは予期ができない。従って、「影響あり」と見極めるべき。講習会資料のスライドを入手し、その中の解説を熟読され、誤った考え方が広がらないように各県で意思統一をはかって欲しい。

⑦「ボディーランゲージを用いて」**基準を示す**

- ・コートレフェリーから、ポストの位置のとりあいを観察する。ボールの展開に合わせて、ユニフォームをつかんだり、肘を使ったりしていること対し、目を合わせコンタクトをとる、イエローカードまでは使用できる(もちろん即座の退場もあり得る)。「後半を退場なしでプレーさせたい」という思いをコート上で必死に表現し、基準を示すこと。この考え方からいけば、前半のレフェリーの立ち居振る舞いは、「ゲームをリードする」という大切な役割を担っていることとなる。

⑧**カテゴリーに応じた運用**

- ・今回の大会は「社会人」のカテゴリー、いわゆる「大人」。是は是、非は非を理解しているはず。学校体育における「教育的配慮」は不要である。大会における準備において、「今回の大会はどのカテゴリーなのか」にこだわって欲しい。審判会議資料の前半部分に「それぞれのカテゴリーに応じた運用」という言葉の意味を考えて欲しい。つまり、社会人相手の接し方に心がけ、スポーツマンシップに反する行為や言動には毅然と対応する。交代地域の秩序も含め、大人のハンドボールのあり方が、日本のハンドボールが目指す方向ととらえられるということも、各県においても広めて欲しい。

⑨その他

- ・ユニフォームの背番号が見づらい(生地と同系色の色)チームがある。福島にて気づいた部分は指摘した。各県において全国大会に出場するチームには確認をしていただきたい。

